

ネット指導をする前に読んでおくとよい本

山形大学 学術情報基盤センター 准教授
加納 寛子

1. はじめに

「ネットのことは、子どもに聞いたほうがよく知っている」では、指導者として失格です。ネット指導をする前には、法律に関する知識、しくみに関する知識、人に与える影響に関する知識、操作に関する知識、社会で起きている出来事に関する知識の5つの知識(図1)を身につけておく必要があります。

操作に関する知識と、社会で起きている出来事に関する知識については、端末の仕様の変化、社会の変化に合わせて、その都度身につけていかねばなりません。クッキーの受け入れ停止に関するパソコンの操作方法やネットいじめによる自殺事件の事例などは拙著²⁾にもありますし、常にアンテナを張って情報収集に努める必要があります。

本稿では、昨今の入学生の傾向を踏まえ、法律に関する知識、しくみに関する知識、人に与える影響に関する知識について、参考になる書籍をご紹介します。

2. 昨今の入学生の傾向

大学に入学してくる1年生の中で、自分のブログやHP(ホームページ)を既に高校生の頃から開設していたという学生が、最近増えてきました。どんなことを書いているの?と尋ねると、「学校であったことや、みんなで盛り上がったことの記録、あとは部活の試合のことかな」などという返事が返ってきます。日常の出来事を、写真付きで、記録に残す

ことを日課にしているようです。毎日日記をつけることは、こなれた文章が書けるようになるための練習と見ても、良いことかなと思いつつ、ブログやSNSを覗いてみると、ランチの写真を載せて、「おいしかった!(^_^)!!」と一言、次の日は「試験最悪〜(-_-)」など、一言日記が多いようです。ケータイメールの影響でしょうか。これでは文章上達には結びつかないだろうなと、少しがっかり。それでも、ネットに毎日アクセスして何かを書き込むことを楽しみにしているネットジェネレーション世代が、すくすく育ち、社会に羽ばたいていくこれからの時代にちょっぴり期待をしている今日この頃です。

3. 法律に関する知識

上記に示す学生らが開設しているブログを見ると、かなり高い確率で、アフィリエイト³⁾が目につきます。大手ネットショッピングサイトであっても、直営ではない個人商店のような店舗も含めた多種多様な店舗が大半の商品を取り扱っています。中には悪質な業者が紛れ込むこともあり、アフィリエイトサイトから購入した品物が、届かなかった、写真の色具合と異なっていた、などのトラブルも付きものようです。

最近では、サイトの管理者が、掲示商品の入れ替えをしなくても、選択したカテゴリーの中の商品を、定期的に自動更新して表示させる便利な機能も付いています。たとえ自動更新によるものであっても、自分のブログやHPで広告を表示させていた商品にトラブルがあった場合、共同不法行為(民法719条)、名板貸責任(商法23条)などの罪で、ブログ開設者、HP管理者も加害者として訴えられる場合もあるそうです。

上記で紹介したアフィリエイトの例のように、インターネットにおけるトラブルに関して、民法、刑法、商法、特定商取引法などに照らしてどんな罪になるのか解説している本『インターネット消費者相談Q & A』を、1冊目にお薦めします。第二東京弁

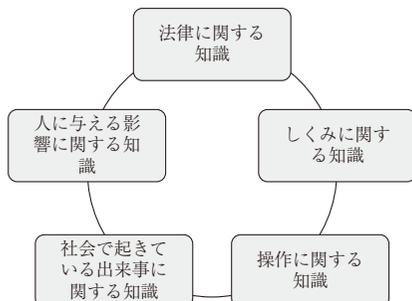
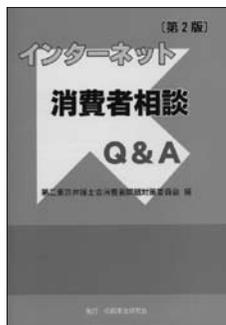
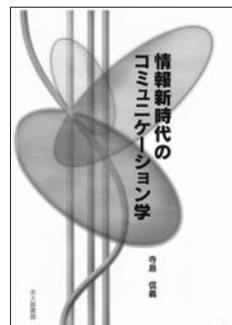


図1 ネット指導に欠かせない5つの知識¹⁾



『インターネット消費者相談 Q&A(第2版)』
第二東京弁護士会消費者問題対策委員会 編
A5判 127頁
民事法研究会 2007年 945円(税込)

『情報新時代のコミュニケーション学』
寺島信義 著
A5判 216頁
北大路書房 2009年 2,310円(税込)



護士会消費者問題対策委員会が編集している本で、コンパクトにまとまっています。ブログを開設し始めた生徒などを指導する際に、どんな法律に触れるのか指摘できると、説得力のある説明ができるでしょう。

4. しくみに関する知識

アフィリエイトのように能動的な行為をしなくても、インターネットが存在する限り、いつの間にか、パソコン内の住所録が悪意の第3者に盗まれていた、メールが傍受されていたなどという危険と背中合わせです。

また、相手の気持ちをいつも考えつつメールのやり取りをしていたはずが、誤解をされて嫌われてしまった、仲違いをしてしまった、という話もよく聞きます。私自身、メールでは、どうしても伝えたいことが伝えきれないもどかしさがあり、重要な話のときは、直接会って話すか、遠距離の場合はスカイプを使うなど、音声によるコミュニケーション手段も併せて利用するようにしています。

メールでのコミュニケーションの難しさを認識していれば、「あ、またか」と思えるでしょうが、それを知らない子どもたちの場合は、真剣にいがみ合ったり、ジコチューと決めつけ、ネットいじめの要因になる場合もしばしばです。

自覚しないうちに情報が盗まれたり、齟齬が起きないように、セキュリティやコミュニケーションなどのしくみについて詳説されている書籍として、寺島信義著『情報新時代のコミュニケーション学』を紹介します。

この書籍では、コミュニケーションツールは、今後も進歩する可能性が語られています。文字ベースからアバターベースへ移り変わり、3次元のイン

ターフェイスになり、バーチャル・リアリティーによるコミュニケーションのしやすさは増大していきさまが描かれています。一方で、このように、コミュニケーションツールが進化すればするほど、コミュニケーションのできない人が増えてきているという逆説的現象がなぜ起きるのか、そのメカニズムを探るためのコミュニケーションモデルをいくつか提示しています。

5. 人に与える影響に関する知識

ときどき保護者の方から、子どもにネットやゲーム、ケータイをさせて良いのか、脳に悪影響はないのか、成績に影響があるのではないかなどと相談を受けることがあります。昨今は「脳」をキーワードとした玉石混合のエッセイが多量に出版されており、何の科学的根拠もなく、ゲームをするとゲーム脳になる、などという言葉が飛び交われています。

勉強しなさい、と言ってもなかなかやらない子どもに手を焼く親にとって、「ゲームをすると脳が悪くなる」、「条例によるケータイ禁止」は、待ち望んだ言葉に聞こえるかもしれませんが。人は、自分の期待通りのことが言われると、大きくうなずき、正反対のことを言われると、「えー？」と、つい怪訝そうな顔をしてしまいがちです。読者の受けを狙うメディアの多くは、耳触りのいい見出しをつけます。しかし、科学的に正しいことと、待ち望んだ結果は必ずしも一致するとは限りません。

もっとも最近では、シリアスゲームのシェアも増え、ゲームが悪いという意見は下火になってきました。しかし、暴力ゲームに不安を持つ大人はまだいるでしょう。この不安を払拭する結果が報告されています。

暴力的なゲームに関して、ハーバード大学の心理

学者 Lawrence Kutner と Cheryl Olson は、2008 年 4 月に発刊した著書『Grand Theft Childhood: The Surprising Truth About Violent Video Games』（邦題『ゲームと犯罪と子どもたち -ハーバード大学医学部の大規模調査より』）の中で、暴力的なゲームをプレイすることはたいていの子どもにとって、ストレス発散に過ぎないと結論づけています。彼らは、約 1200 人の子どもに対し『Grand Theft Auto』などの暴力的なゲームと、『The Sims』などのそれほど暴力的ではないゲームを体験させ、その後の振る舞いを調査しました。もちろん、暴力的なゲームを数時間プレイした後に遊び半分の攻撃性を見せた子どもも中にはいましたが、武道アクション映画を観た後の子どもが見せる反応と同じレベルだったとのことでした。

また、ゲームは脳にポジティブな影響を与えると言う指摘もなされています。Steven Johnson は、著書『Everything Bad is Good for You: How Today's Popular Culture is Actually Making Us Smarter』（邦題『ダメなもの、タメになる テレビやゲームは頭を良くしている』）の中で、テレビやゲーム、さらにネットなど、どんどん複雑化している日常のエンターテインメントに触れていく中で、脳は活性化され、人々は「賢くなっている」ことをデータの裏づけで指摘しています。著者は、もちろん、ゲームばかりしていることが良いと言うことを述べているわけではなく、本ばかり読んでいるより、時にはゲームをしたりテレビを見たりすることによって、読書では活性化されなかった部分の脳が活性化されるとい

う趣旨のことを述べています。要するに、いろいろなことを体験し、普段使わない部分の脳も使った方が賢くなるということなのです。

さらに、ハーバード大学とエール大学の修士号を持つアメリカのジャーナリストの Mark Prensky は、著書『Don't Bother Me Mom - I'm Learning !』（邦題『テレビゲーム教育論—ママ！ジャマしないでよ勉強してるんだから』）の中で、10 歳の子どもはゲームを通して、経済とビジネスの教訓や協調性、倫理、そして健康増進を行っていると言っています。

〇〇が脳に良くないと言うより、バランスの良さが大切ではないかと思います。

注

- 1) 『ネット・ケータイ指導の進め方』(近刊予定)
- 2) 『ネットジェネレーションのための情報リテラシー&情報モラル～ネット犯罪・ネットいじめ・学校裏サイト』(2008)
- 3) サイトを通して購入した人ごとにポイントが付与され、ポイントの額に応じて現金などに交換できる広告。



『ダメなもの、タメになる テレビやゲームは頭を良くしている』
 スティーブン・ジョンソン 著
 山形浩生、守岡桜 訳
 乙部一郎 監修
 四六判 296 頁
 翔泳社 2006 年 1,890 円(税込)



『ゲームと犯罪と子どもたち -ハーバード大学医学部の大規模調査より』
 ハーバード大学医学部 ローレンス・カトナー博士、
 シェリル・K・オルソン博士 著 / 鈴木南日子 訳
 A5判 344 頁
 インプレスジャパン 2009 年 3,675 円(税込)

『ママ！ジャマしないでよ 勉強しているんだから
 テレビゲーム教育論』
 マーク・プレンスキー 著 / 藤本 徹 訳
 四六判 388 頁
 東京電機大学出版局 2007 年 2,520 円(税込)

